



奥高だより

平成 28 年度 第 8 号 通算 168 号

北海道奥尻高等学校

平成 29 年 3 月 21 日 発行

TEL・FAX 01397-2-2354

www.town.okushiri.lg.jp/highschool/

卒業おめでとう!!

3月1日、第40回卒業証書授与式が行われました。
校長先生からは「自分が変われば周りも変わる」「人間は誰も課題がある」「卒業しても君たちの力で奥尻高校は成長する」という3つのことを伝えていただきました。

また、PTA 会長 横山 雅弘 様からは「失敗して、叱られて、へこんで、仕事を辞めたい、辞める、ではなく、失敗して、叱られて、へこんで、乗り越えてください」と祝辞をいただきました。

14名の卒業生は真剣な眼差しで祝辞を聞いていました。



そして、今回は町立移管後初めての記念すべき卒業式ということで、式の内容は工夫を凝らしたものになりました。まず、奥尻高校に貢献してくれた卒業生全員に対して一人ずつ「功労賞」が贈られました。さらに、卒業生の3年間を振り返るスライドショーが「3月9日」「ありがとう」の曲とともに上映され、卒業生や保護者の方々は思い出に浸りながら、涙していました。最後に式歌「旅立ちの日に」を全校生徒で歌い、式は感動の雰囲気になりました。

14名の卒業生の皆さん、

卒業おめでとうございます！！

奥尻島QOL調査報告会

① 奥尻島QOL調査報告会 in 慶應義塾大学

2月24日(金)、本校代表として生徒3名が慶應義塾大学日吉キャンパスで行われた「2016年度北海道奥尻町×慶應 SDM 地域創生プロジェクト実施報告会」に参加してきました。

報告内容としては、一般企業の方々に対するもので、慶應義塾大学大学院 SDM 研究科と協力しながら本校で実施してきた QOL 調査に関するワークショップの概要と実際の分析結果の報告です。



とても短い準備期間でしたが、アドリブも交えながら、落ち着いたある堂々としたプレゼンテーションをすることができました。

実際に慶應義塾大学に行き、報告を行ってきたのは3人ですが、他4人の生徒が Excel を駆使して、実際の分析など、発表の準備をしてくれました。そのおかげで、代表3人は落ち着いた発表を進められたと思います。



25日は、慶應義塾大学の日吉キャンパス・三田キャンパスを見学させていただきました。大学院の講義も見学することができ、外国人講師や留学生と英語で交流してきました。生 English Saloon のようでした。



生徒にとって、「初めて」の慶應義塾大学や同じ年代の生徒ではなく、「初めて」の大人に対するプレゼン、「初めて」の suica など、「初めて」ばかりの濃密な3日間になったと思います。とてもよい刺激を受け、帰ってこれることができました。

今回得られた経験を、他の生徒に、学校全体に、さらには町全体に還元していってくれることを期待しています。

貴重な機会を与えてくださった慶應義塾大学大学院 SDM 研究科の皆様、その他関係者の皆様、本当にありがとうございました。

② 奥尻島QOL調査報告会 in 海洋研修センター

2月27日(月)、奥尻町の海洋研修センターでも、奥尻島民を対象とした報告会を行いました。

分析した結果は高校生にとっても島民にとっても驚きの内容でした。「奥尻島に住み続けたいと思っていない人が持つ不満を見つける」ということを目的として分析を始めましたが、「職場や隣人などとの人間関係」や「自然との触れあい」に不満を感じている人が多いことがわかりました。島には温かい人が多く、人間関係も良好だという印象が一般的だと考えていたため、非常に驚きの分析結果でした。



しかし、「原因がわかれば、対策も立てられる！」ということで、今後も分析を続けながら、本校の町おこしワークショップや奥尻パブリシティなどでも改善策を発信していけたらと思います。



「新奥尻中学校校歌について」

来年度の奥尻中学校の開校にあたり、校歌作成という形で関わらせていただき、大変貴重な経験となりました。ここでそのきっかけから作成した校歌への想いなどをお話しさせていただきたいと思います。

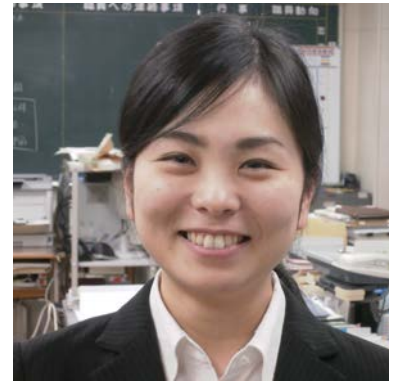
校歌作成の依頼については、昨年度末、奥尻町教育委員会の石島孝司教育長からお話がありました。大きな不安がありましたが、校歌作成は、島のために自分の力を活かすことのできる数少ない機会であること、また前奥尻高等学校長の山下雅巳校長から背中を押していただいたこともあり、清水の舞台から飛び降りる覚悟で引き受けさせていただきました。

作曲では、合唱の雰囲気を持つ、今までにない校歌が良いのではとのご助言をいただき、曲調は優しく温かいものに、そしてその中に切ない感じも取り入れ、心に響く音楽を目指しました。作詞では、これからの学校生活や人生を歩んでいく上で私が大切だと考えている、自分自身（1番）、友との関わり（2番）、郷土への思い（3番）をテーマに、奥尻の自然も取り入れながら歌詞を考えました。月並みな表現になってしまいますが奥尻に来て1年、島の自然の美しさや雄大さに日々心を動かされていました。校歌を歌う中学生が、自分たちの郷土の美しさを改めて感じ、それぞれが情景を心に思い描きながら歌えることを願っています。曲のテーマが固まると言葉を探していくことになりませんが、自分のイメージする言葉が見つからない、文字数や音程の壁（メロディーとの関係）など、1フレーズ10文字程度ですが、何時間、何日かけても全く言葉が浮かばないことが何度もあり、その度心が折れそうになりました。それでも、島の景色を見てイメージを広げたり、詩を読むことや音楽を聴くことで想像力を高めたり、辞書を駆使して言葉を探すなどし、なんとか歌詞も形にすることができました。

できあがった曲を、音楽に精通している俵谷校長先生の前で初めて演奏し、「良い曲だね」と声をかけていただいた時は、とても嬉しかったのと同時に本当に安堵しました。その後、昨年9月に改良し、最終的な校歌が完成しました。

中学校の校歌ということで、中学生のためにより良い曲をという想いで作成してきましたが、校歌には島への想いもたくさん込めていますので、島の皆さんにも親しんでいただくと幸いです。校歌作成にあたり、さまざまな方にお力添えいただきました。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

なお、奥尻中学校校歌は本校のFacebookで聴くことができます。ぜひお聴きください。



三本竹 真央 教諭

奥尻中学校校歌

作詞・作曲 三本竹 真央

一． 緑豊かに萌ゆる
神威の山や
風に揺れる木々や
野草のような
どんな雨や
風にも負けない
強さしなやかさ
心にもって
夢を見つめ
希望抱いて
未来へ進もう

二． 水面きらめく北の
青い海や
空に遥かに広がる
光のような
絶えることなく
すべてを包む
深き温かさ
心にもって
友の手を取り
導き合って
確かに歩もう

三． 色とりどりの時を
紡ぐ季節
幾度も重ねてきた
人のように
悠久の
尊き郷土を
いとおし守る
心をもって
誇りを胸に
扉開いて
くじけぬ魂を
溢るる生命を
永遠に紡ごう

3年生 音楽発表会

1月27日(金)3年生による音楽発表会が行われました。演奏者は、荒川眞央君、伊藤優陽君、横山七海さんです。3人とも緊張した面持ちでピアノに向かいます。それはやっぱり、練習の時とは違って、1年生全員と3年生全員、そして先生方を前に演奏しなければならなかったからです。練習の成果は表れたのでしょうか？



写真は伊藤優陽君がゆずの「栄光の架け橋」を演奏しているところです。横山七海さんは松任谷由美の「春よ、来い」、荒川眞央君はベートーベンの「月光」を演奏しました。練習のときのように楽しく演奏できました。会場は拍手喝さいです。



最後に3人でポルノグラフィティの「メリッサ」を演奏しました。会場みんなの手拍子に合わせてノリ良く演奏します。笑い声に包まれて、和やかに、楽しく演奏をしました。

3人とも楽器を持つのは高校に入ってからでした。楽器を演奏する楽しさを知った3人は、別な曲にもチャレンジすることを希望しています。

本当に高校生の可能性は無限大です！！

3月の行事予定

| | | | |
|----|---|---------|-----|
| 13 | 月 | | 朝読書 |
| 14 | 火 | 定期券販売日 | |
| 15 | 水 | | |
| 16 | 木 | 進路活動経験談 | |
| 17 | 金 | | |
| 18 | 土 | | |
| 19 | 日 | | |
| 20 | 月 | | |
| 21 | 火 | | 朝読書 |
| 22 | 水 | 職員会議 | |
| 23 | 木 | | |
| 24 | 金 | 終業式 | |
| 25 | 土 | 学年末休業日 | |
| 26 | 日 | | |
| 27 | 月 | | |
| 28 | 火 | | |
| 29 | 水 | | |
| 30 | 木 | | |
| 31 | 金 | | |

新中学校校舎

新中学校校舎は無事完成しました。中学校校舎では高校とは別のチャイムが鳴っています。窓からのぞくと、もう中には棚があったり、絨毯の床が敷き詰められていたり……。高校の校舎とも廊下でつながっています。

4月から中学生と高校生が同じ敷地内で過ごします。にぎやかになりますね。中学生のみなさん、どうぞよろしくお願いします。

